

第21回（平成31年度第1回）
セーフコミュニティ交通安全対策委員会

《会 議 次 第》

日時：平成31年4月15日(月) 10:00～

場所：市役所13階 1303会議室

1. 開 会

2. 報告事項

(1) セーフコミュニティの今後のスケジュールについて

(2) 久留米市における交通事故発生状況について

3. 協議事項

(1) 平成30年度取り組み実績及び平成31年度取り組み方針（案）について

(2) 交通安全に関する広報啓発活動について

4. その他

久留米市交通安全対策協議会 会議スケジュール

①幹事会 6月中旬予定（ご出席をお願いいたします）

②総 会 7月初旬予定（ご出席の必要はありません）

5. 閉 会

【交通安全対策委員会事務局】
久留米市協働推進部安全安心推進課
担当：末安、靄久
TEL：0942-30-9094
FAX：0942-30-9706
メール：anzen@city.kurume.fukuoka.jp

【セーフコミュニティ】年間スケジュール

報告事項(1)

業 務	H30			H31												備考
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
SC推進協議会					調整会議	本部会議	協議会					任期満了 11/8				
SC対策委員会	1/25 ● 事務局会議	対策委員会					任期満了 7/31	対策委員会(2回程度開催)								
外傷等動向調査委員会		外傷委員会						外傷委員会(2回程度開催)								
SCフェスタ								SCフェスタ								

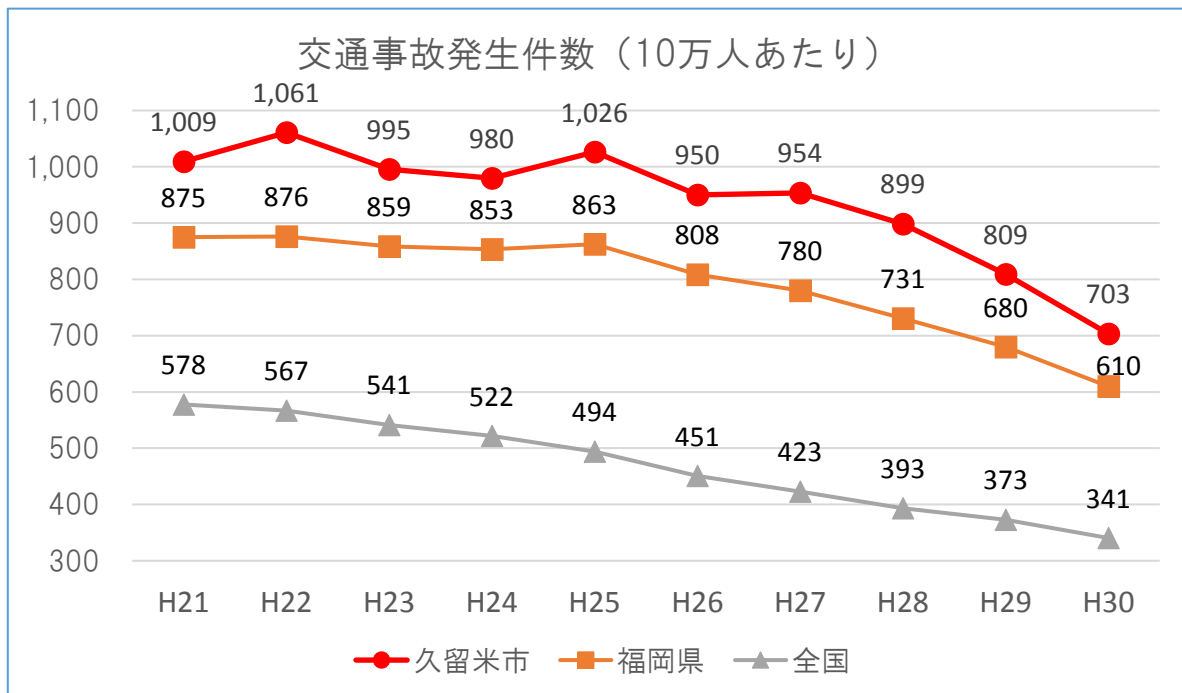
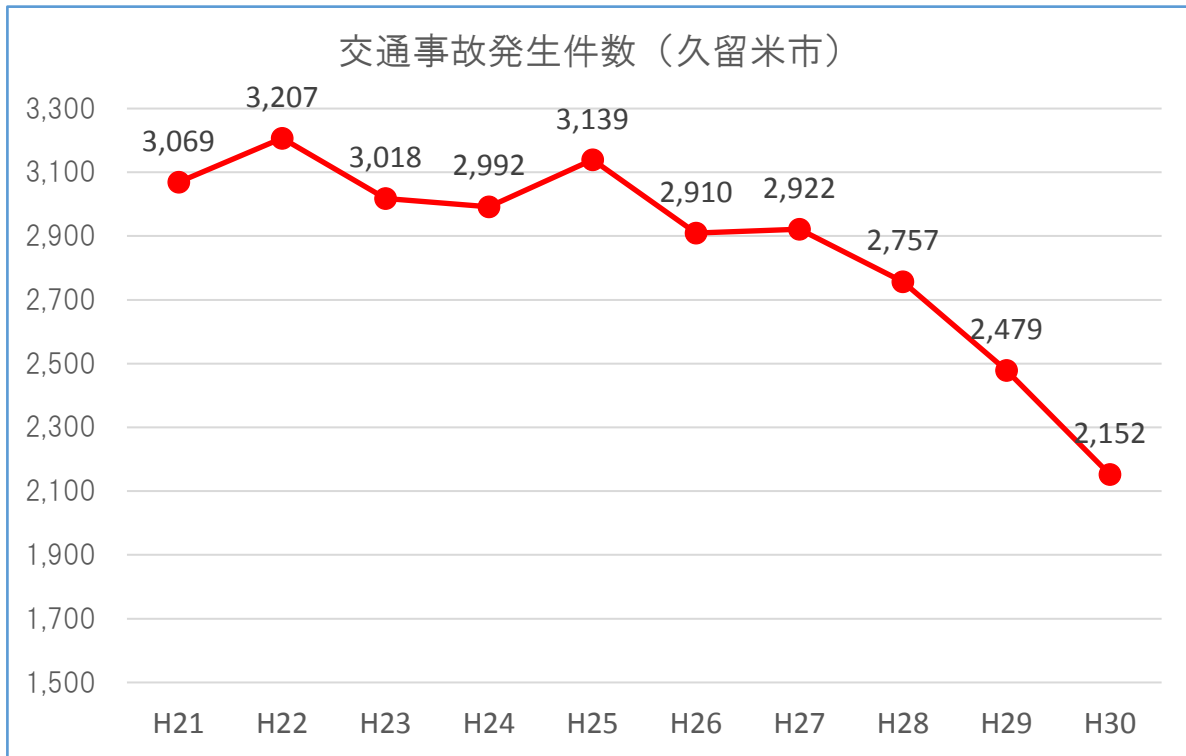
国際認証第2期(2019~2023)の主な予定

- | | |
|-----------|--|
| 2019(H31) | ◎今後5年間の基本的な方針の決定
◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の概要検討と整理 |
| 2020(H32) | ◎次回「セーフコミュニティ実態調査」の決定と実施、集計・分析 |
| 2021(H33) | ◎取り組みの骨格の検証と見直し
●重点取り組み分野と項目の見直し
●国際認証の再々取得の意思決定 |
| 2022(H34) | ◎国際認証の再々取得のための事前指導 |
| 2023(H35) | ◎国際認証の再々取得のための現地審査 |

久留米市における交通事故発生状況

データ:警察統計もしくは警察統計を基に事務局整理

① 交通事故発生件数



久留米市内の交通事故発生件数は減少傾向で推移しているが、10万人あたりに換算すると、県、全国と比較して高い水準にある。

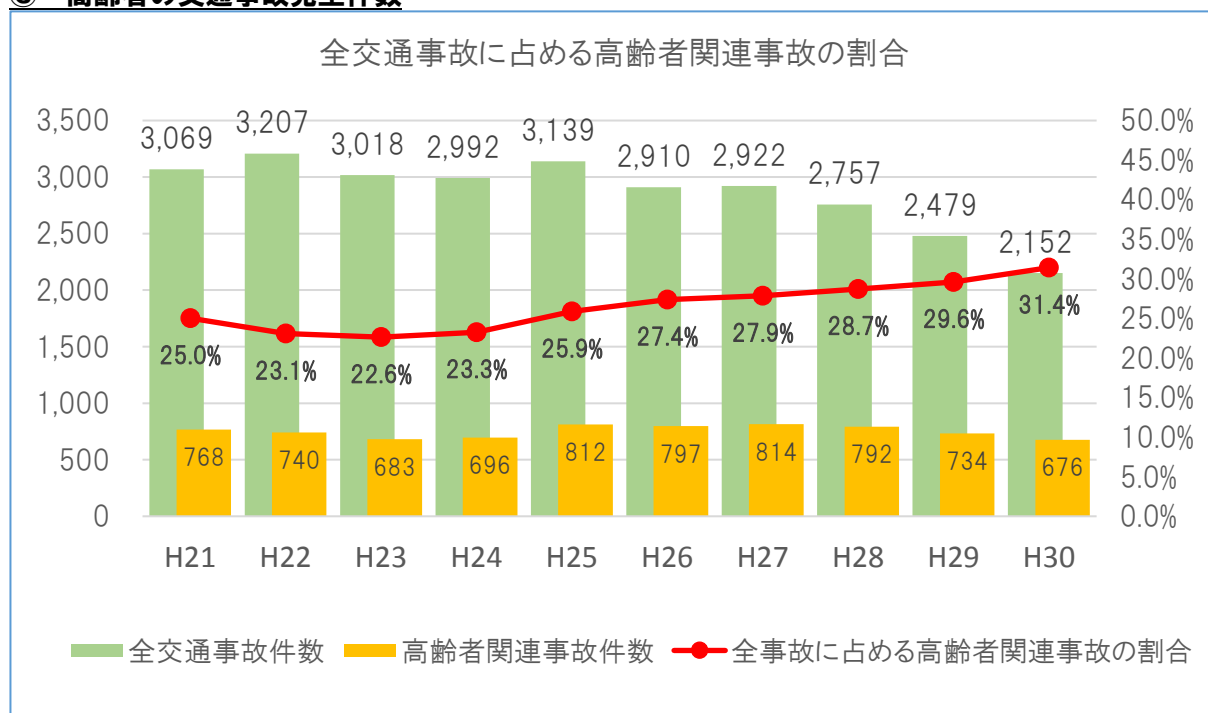
② 平成 30 年中の交通死亡事故（久留米市内）

★交通事故による死亡者…平成 29 年:6 人 → 平成 30 年:10 人 ※4 人増加！

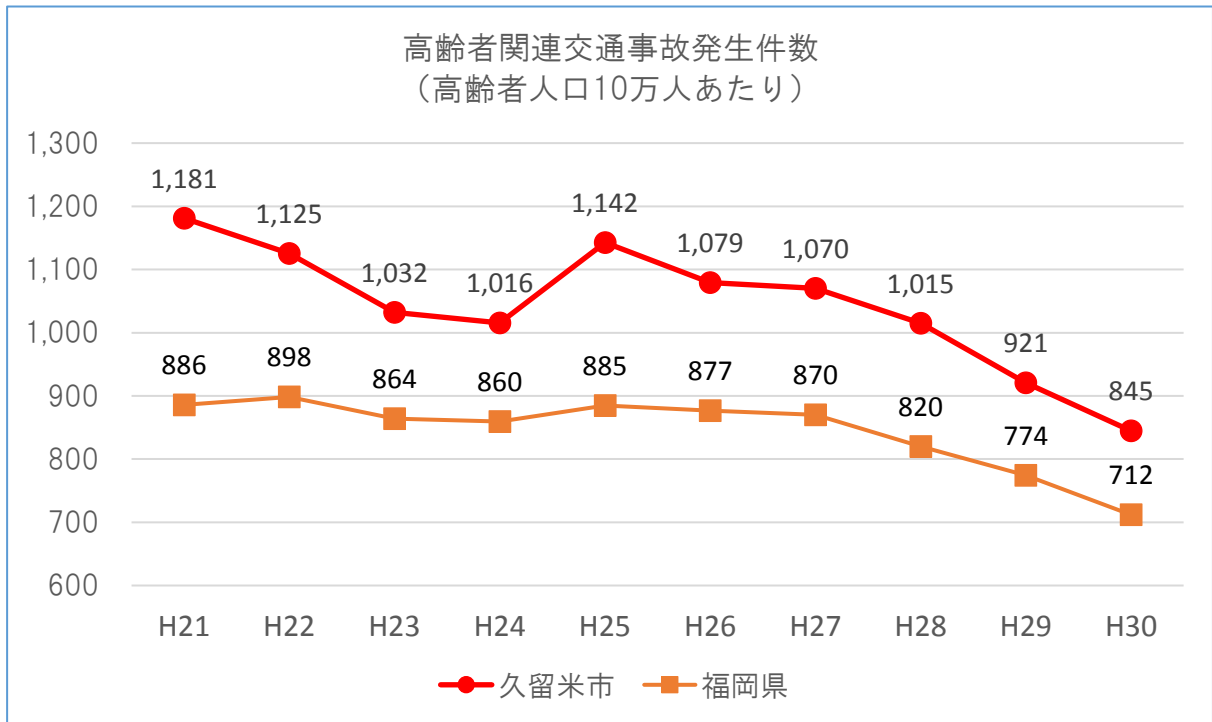
★死亡者 10 人中 7 人が高齢者

日時	場所	事故形態	当事者	死亡
1 月 27 日	南 (県道)	衝突 (横断歩道外横断)	普通乗用 36 歳女性 歩行者 79 歳女性	歩行者 79 歳女性
3 月 19 日	梅満町 (国道)	衝突 (横断歩道外横断)	普通乗用 52 歳男性 歩行者 82 歳女性	歩行者 82 歳女性
6 月 13 日	田主丸町 (市道)	衝突	自転車 16 歳男性 列車	自転車 16 歳男性
6 月 23 日	津福本町 (国道)	追突 (信号停止中)	中型貨物 52 歳男性 大型貨物 32 歳男性	中型貨物 52 歳男性
7 月 11 日	安武町 (県道)	衝突 (出会い頭)	原付 68 歳男性 大型貨物 59 歳男性	原付 68 歳男性
7 月 17 日	田主丸町 (市道)	追突 (同一方向進行中)	普通乗用 37 歳男性 自転車 65 歳男性	自転車 65 歳男性
8 月 18 日	田主丸町 (市道)	路外逸脱 (単独)	自転車 74 歳女性	自転車 74 歳女性
8 月 26 日	上津町 (国道)	衝突 (横断歩道外横断)	軽四乗用 35 歳男性 歩行者 67 歳女性	歩行者 67 歳女性
9 月 11 日	田主丸町 (市道)	衝突 (後退中)	準中型貨物 33 歳男性 自転車 89 歳男性	自転車 89 歳男性
12 月 13 日	宮ノ陣町 (市道)	衝突 (単独)	軽四貨物 61 歳男性	軽四貨物 61 歳男性

③ 高齢者の交通事故発生件数

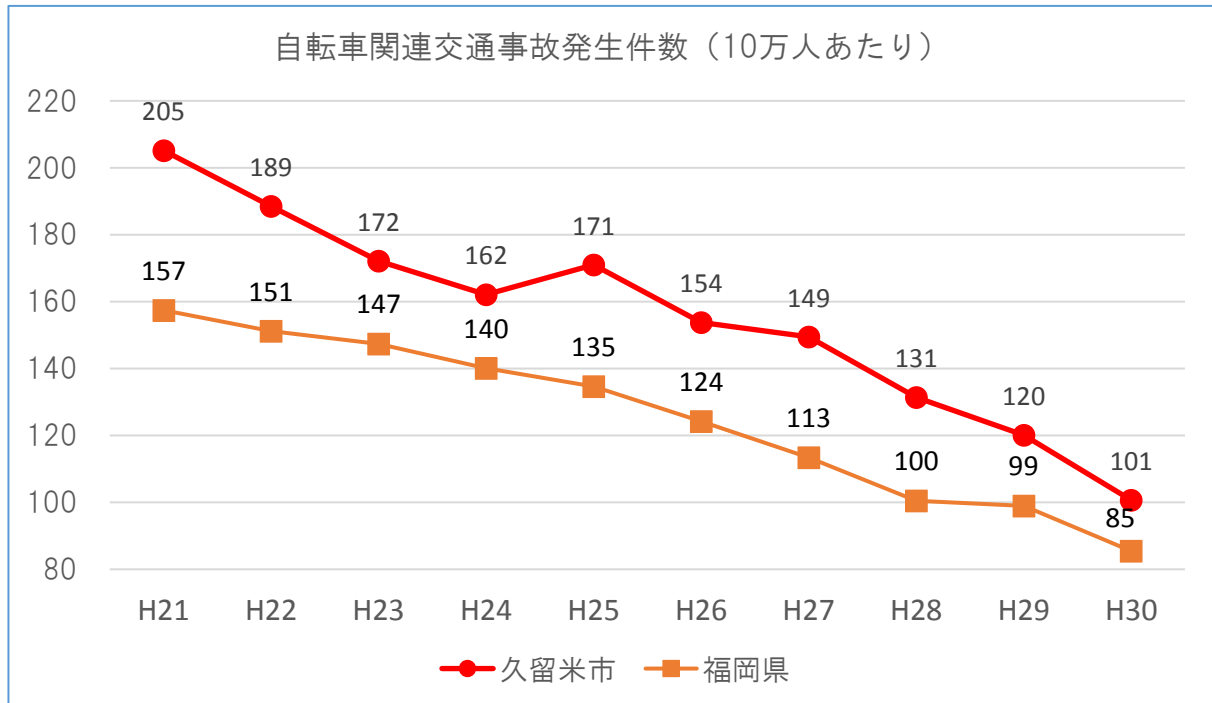


高齢者の交通事故発生件数は近年減少傾向で推移しているが、全交通事故に占める割合は高まっている。



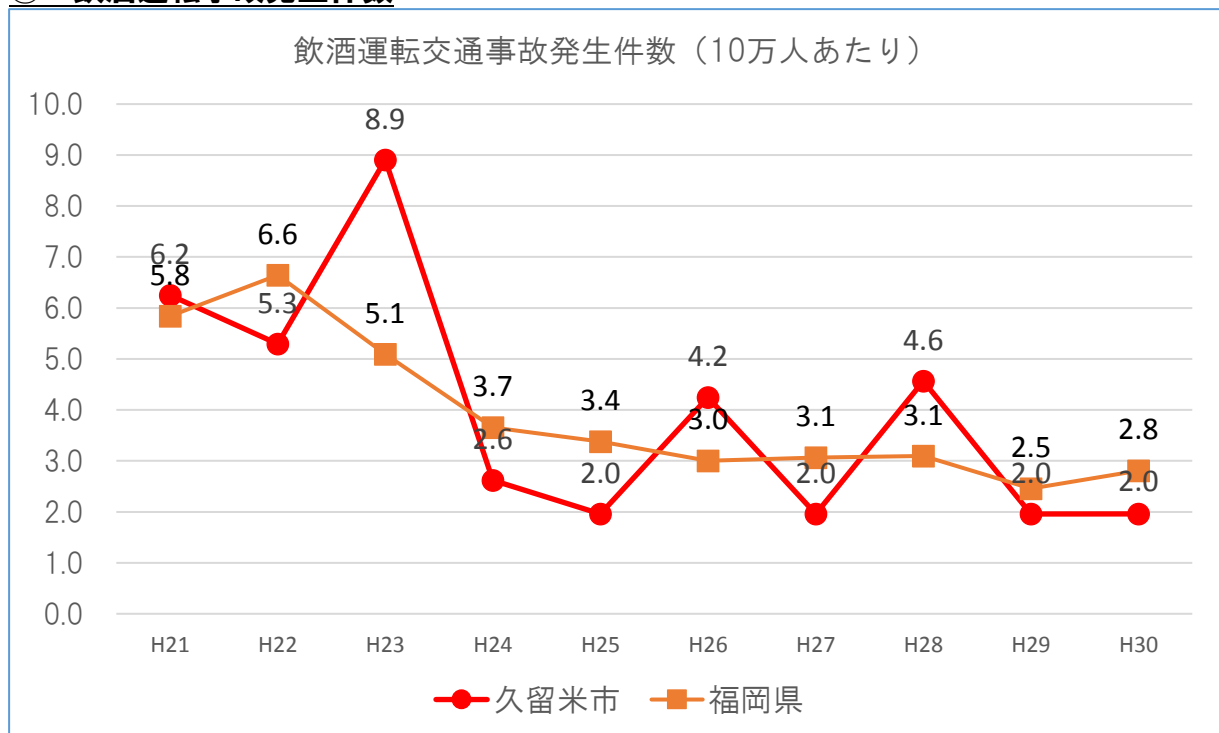
高齢者の交通事故発生件数の減少と高齢者人口の増加から、10万人あたりの割合は減少傾向にある。しかしながら、依然として県と比較すると高い水準にある。

④ 自転車の交通事故発生件数



自転車の交通事故発生件数は、平成 25 年に増加に転じたものの、以降は再び減少傾向となっている。依然として県より高い水準にあるが、その差は狭まっている。

⑤ 飲酒運転事故発生件数



飲酒運転による交通事故発生件数は、減少傾向にあるが、飲酒運転の撲滅には至っていない。
概ね県平均と同様の推移となっている。


＜具体的施策（４２施策）の個票＞

交通安全対策委員会

個票

【高齢者事故防止】1—① 運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施							
課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・運動能力や身体機能の変化に応じた行動が取れていない ・高齢者が加害者となる事故が増加している 					
	主観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない 					
目標	高齢者関連事故の減少、高齢者が第一当事者となる交通事故件数（割合）の減少						
内容	歩行中や自転車・自動車運転中に自らの運動能力等を自覚した行動を意識してもらうため、様々な機会を捉えた講習を実施するとともに、運転免許の自主的な返納に関する啓発を行う。						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体、警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2018年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や交通安全協会、自動車学校等と連携し、シルバーセーフティスクールを開催（4月／実技・体験型講習） ・高齢者対象の交通安全教室（警察・随時） ・交通安全運動説明会を実施し参加を広く呼びかけ（ボランティア、企業、関係団体向け） ・グランドゴルフ大会等での啓発 						
2019年度の方針及び課題等	<p>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校区コミュニティ組織等との連携 ○交通安全指導員、ボランティア等による地域での自主活動の促進（指導員等への情報提供の充実） <p>運転免許自主返納制度の周知【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ組織や老人クラブ連合会、関係機関との連携 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	①高齢者対象交通安全講習の実施回数	回	46	34	30	30	50
	②高齢ドライバー向け啓発活動の実施回数	回	2017より実施			10	12
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	2017より実施			59.1	72.2
【中期】態度・行動	運転免許自主返納者数[警察統計]	人	市町村別の統計なし		509	1,268	1,154
【長期】状況	①第1当事者となる高齢者の交通事故発生件数	件	513	517	515	482	476
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	69.5	68.0	66.0	60.3	59.5

【高齢者事故防止】1-② 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い ・薄暮時から夜間にかけての歩行中の事故が多い 					
	主観的課題	高齢者が交通安全に関する知識を得る機会が少ない					
目標	夕方・夜間の高齢者関連交通事故件数（割合）の減少						
内容	夜間・薄暮時の外出時に車両から早期に発見されることで交通事故を回避するため、高齢者に対して、明るい服や反射材の着用を促す街頭キャンペーンを実施する						
対象者	一般市民（高齢者）						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、老人クラブ連合会等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講習会の開催 ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2018年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、交通安全協会等と連携した高齢者の交通事故防止キャンペーン実施（12回） ・交通安全運動説明会の実施（ボランティア、企業、関係団体向け） ・防犯対策委員会との連携（青パト活動団体の夜間パトロール時に反射材配布など） ・反射材体験コーナー設置（市役所ロビー）※新バージョン作成 ・高齢者福祉大会、グランドゴルフ大会で啓発、反射材配布 						
							
2019年度の方針及び課題等	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>防犯対策委員会との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青パト活動団体等との連携 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なキャンペーンの実施 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	①キャンペーンの実施回数	回	9	11	11	10	12
	②出前講座の実施回数	回	14	11	12	4	11
【短期】認識・知識	講習参加者の意識の変化[アンケート] 受講後、「必ず反射材を身につけて外出するようにする」と答えた方の割合	%	2017より調査			59.1	72.2
【中期】態度・行動	反射材の着用率[SC実態調査(3年毎)] ※必ず身に着けている人の割合	%	2017より調査			7.5	—
【長期】状況	①高齢者の夕方・夜間（15時～21時） における交通事故発生件数	件	283	272	275	249	237
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	38.3	35.8	35.2	31.2	29.6

【高齢者事故防止】1-③ 安全安心マップの作成

課題	客観的課題	高齢者の歩行中や自転車の死亡事故が多い					
	主観的課題	住んでいる地域でも、どこで交通事故が起きているか知らない					
目標	高齢者の交通事故発生件数、全事故に占める割合の減少						
内容	交通事故発生箇所や危険な箇所を記載した地図を作成し、見守り活動や安全施設整備など様々な交通安全活動に活用する						
対象者	一般市民						
実施者	交通安全協会、交通安全指導員等ボランティア、地域コミュニティ組織等関係団体 警察、市 など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働による研修、フィールドワーク ・防犯、防災分野との連携、調整 						
2018年度の実績 及び 改善した点等	2017年度にフィールドワーク（危険箇所確認）を行った西国分校区のマップ完成 篠山校区でのフィールドワーク実施、マップ完成 ※ともにPTAが中心となり、校区・関係団体と調整						
2019年度の方針 及び 課題等	他の対策委員会と連携したマップの作成【継続】 ○分野横断的なマップ作成（防犯、防災） コミュニティ組織や校区の関係団体との連携【継続】 ○校区コミュニティ組織や校区の交通安全協会・防犯協会、学校、PTA等との連携 作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善【継続】 <課題> ・既存マップ（他分野、類似物）との整理						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	市との協働によりマップ作成に取り組んだ校区数	校区 (延べ)	1 (2)	0 (2)	1 (3)	2 (5)	1 (6)
【短期】認識・知識	マップ作成校区の交通事故発生件数 [警察統計]（前年比）	件	107 (-21)	120 (+13)	240 (-4)	410 (-33)	424 (-73)
【中期】態度・行動	マップを作成し、交通安全に取り組んでいる校区数 [各校区へのアンケート調査]	校区	31	—	—	—	—
【長期】状況	①高齢者の交通事故発生件数	件	797	814	792	734	676
	②高齢者人口1万人あたりの①の件数	件	107.9	107.0	101.5	91.8	84.5



【自転車安全利用】 1-④ 交通安全教室の実施

課題	客観的課題	10歳代の自転車事故が突出して多い						
	主観的課題	年代に応じた交通安全教育が不足 } (10歳代前半：自転車に慣れていない 10歳代後半：通学など行動範囲の拡大)						
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少							
内容	地域の交通安全ボランティアの協力を得て、年齢に応じた交通安全教育を実施するとともに、対象を中学生、高校生に拡大して実施							
対象者	幼稚園・保育園児、小学生、中学生、高校生							
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、学校警察、市 など							
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室の実施 委員の所属団体や関係団体における啓発 チラシ、啓発グッズの作成 							
2018年度の実績及び改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> 警察及び交通ボランティア等と連携し、年齢層に応じた交通安全教室を実施 ※全小学校で自転車教室実施 学童保育所へのSC出前講座開始【新規】 交通安全運動説明会の実施（ボランティア、企業、関係団体向け） 中学校新入学説明会で自転車安全利用チラシ配布 県との連携（小学生とその保護者を対象とした自転車安全利用講習会） 保護者向け交通誘導教室の開催（2校区） 							
2019年度の方針及び課題等	<p>中学生・高校生への交通安全教育の充実【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各中学校、高校への働きかけ ※防犯教室や非行防止教室との連携等 							
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018	
活動指標	①交通安全教室の実施回数	回	149	164	192	247	291	
	②参加者数	人	20,223	19,537	19,436	26,851	27,353	
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※19歳以下]	%	58.7	70.6	59.6	56.1	70.1	
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める19歳以下の件数[警察統計]	件	189	177	163	136	119	
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	471	458	403	368	308	



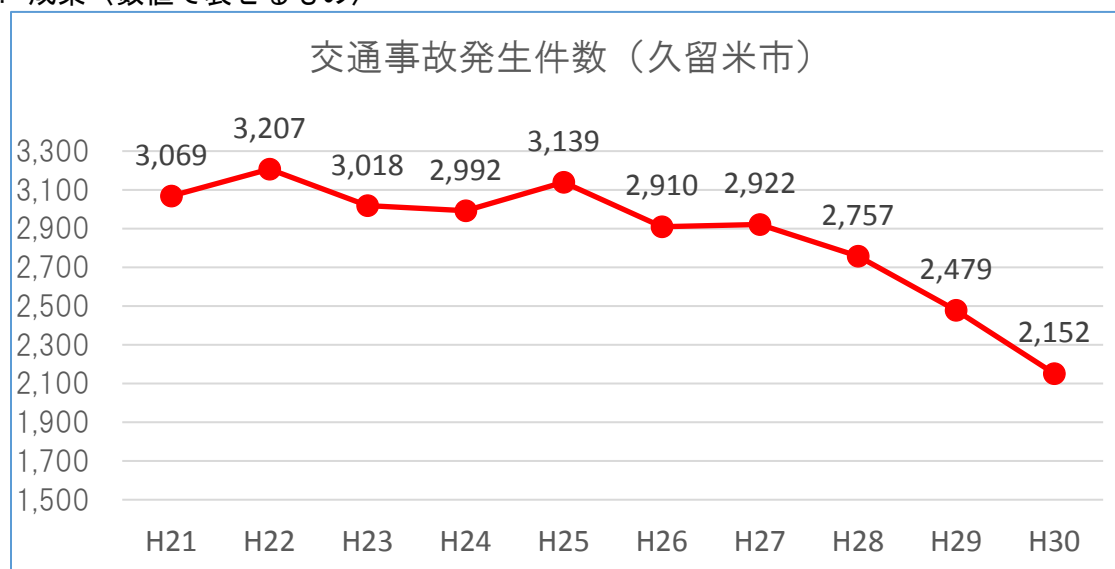
【自転車安全利用】 1-⑤ 自転車安全利用キャンペーンの実施

課題	客観的課題	<ul style="list-style-type: none"> ・10歳代の自転車事故が突出して多い ・自転車に関するルールを守らない、知らない人が多い 					
	主観的課題	自転車は車両であるという意識が低い					
目標	自転車の交通事故発生件数・全事故に占める割合の減少						
内容	駅周辺や自転車駐車場において、自転車利用者を対象に、ルール・マナー遵守の徹底と安全利用を呼びかける街頭啓発を実施						
対象者	一般市民（自転車利用者）						
実施者	地域交通安全活動推進委員、交通安全指導員、交通安全協会、自転車商組合等関係団体 警察、市など						
対策委員会の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・街頭啓発キャンペーン、各種交通安全イベントへの参加 ・委員の所属団体や関係団体における啓発、団体広報紙等への記事掲載 ・チラシ、啓発グッズの作成 						
2018年度の実績 及び 改善した点等	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、ボランティア等と連携したキャンペーンの実施（18回） ※防犯分野と連携し、「自転車ツーロック」を同時に呼びかけ ・自転車利用者に対し、街頭でリフレクター、サイクルライト等を配布 ・交通安全運動説明会の実施（ボランティア、企業、関係団体向け） ・新成人に対する啓発チラシの配布 ・新中学生全員に自転車安全利用チラシ配布 ・自転車利用者に対するアンケート調査実施 ・自転車関係イベントへ参加し、交通安全ブース設置 						
2019年度の方針 及び 課題等	<p>マナー・ルールを知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>他分野との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防犯分野（自転車ツーロック）との連携 ○交通政策部門（ハード整備含む）との連携 						
指標	内容	単位	2014	2015	2016	2017	2018
活動指標	キャンペーンの実施回数、配布物数	回	12	10	13	14	18
		セット	4,200	3,800	4,000	4,160	5,000
【短期】認識・知識	交通ルールについて、「知っており、守っている」と答えた割合 [自転車駐車場利用者アンケート※20歳以上]	%	66.6	74.9	75.6	72.9	69.2
【中期】態度・行動	自転車関連事故に占める20歳以上の件数[警察統計]	%	282	281	240	232	189
【長期】状況	自転車の交通事故発生件数	件	471	458	403	368	308



重点取り組み項目	No	具体的施策名
高齢者の交通事故防止	1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施
	1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	1-③	安全安心マップの作成
自転車事故の防止	1-④	交通安全教室の実施
	1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施

ア. 成果〈数値で表せるもの〉



横ばい傾向であった市内の交通事故発生件数は、セーフコミュニティ国際認証取得(H25)以降、減少傾向に転じており、特に2018年(H30)は大きく減少した。

イ. 成果〈数値で表せないもの〉

- 啓発活動に関して、継続的に各団体等と連携できた
- ・ 防犯対策との連携（青パト活動団体による反射材の配布）
 - ・ 街頭キャンペーンへの協力（企業、自転車商組合等）
 - ・ 青少年健全育成分野との連携
 - ・ 交通政策分野との連携
 - ・ 民間企業との連携（講習会への協力、啓発物の提供など）

ウ. 2018年度の取り組みで最も成功した事例

子ども向けセーフコミュニティ教室の実施

学童へ出向き、スクリーンや啓発グッズを活用したり、実演を交えたりしながら、児童に横断歩道の渡り方や車の死角、反射材の効果など、交通安全について楽しく学べるセーフコミュニティ教室を実施した。(8校区)

エ. 2018年度で最も積極的に取り組んだ活動

【高齢者の交通事故防止】

反射材着用の重要性及び高齢運転者の事故防止について広く呼びかけた

- ・ 反射材の効果体験するコーナーの継続設置 ※展示パネルをリニューアル
- ・ 出前講座での反射材実演
- ・ 街頭での反射材キャンペーン実施
- ・ 防犯対策と連携した啓発（青パト活動団体との連携等）

オ. 分野横断的に行っていること

- ・ 警察をはじめ、各行政機関や関係団体、交通関係事業者等で組織する「久留米市交通安全対策協議会」において、ソフト・ハード面における取り組みを協議しながら、それぞれの役割に応じた活動を行っている。
- ・ 啓発活動における各団体との連携
老人クラブ連合会や民間企業等と連携し、啓発活動を実施
- ・ 防犯対策、防災対策との連携
 - * 自転車盗難防止（防犯対策）とあわせて自転車安全利用を啓発
 - * 青パト活動時の反射材配布
 - * 安全安心マップ作成

カ. 今後の方向性や取り組みを進める上での課題

【高齢者の交通事故防止】

高齢者が関係する交通事故の発生件数自体は減少傾向であるが、全事故に占める割合は増加しており、また、その割合が高齢者人口の割合よりも高い（下図①）ことから、他の年代よりも高齢者が交通事故に遭うリスクが高いと言える。

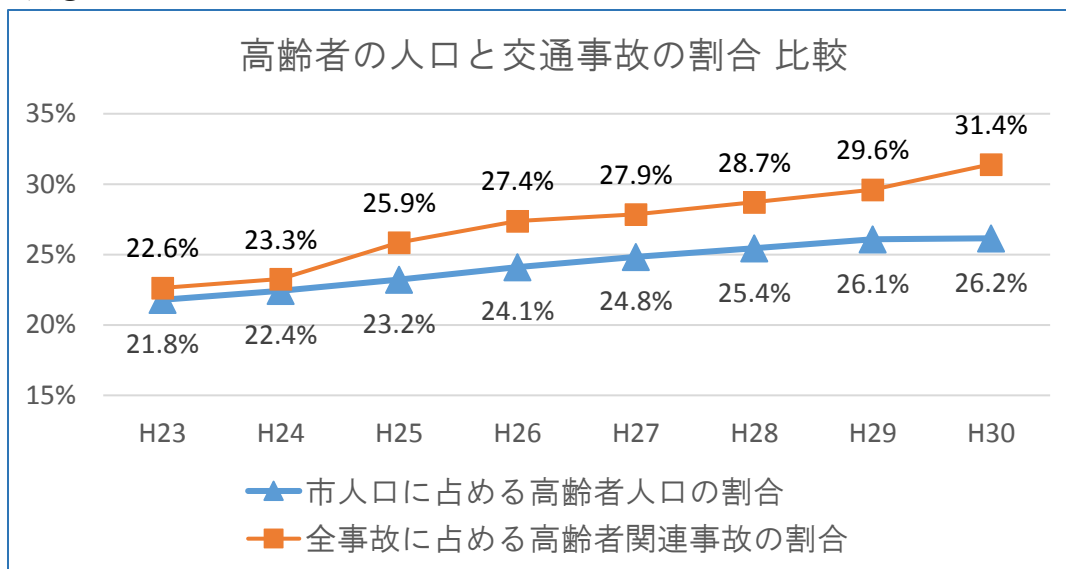
このことから、市の交通事故減少を図るうえでは、高齢者の交通事故防止が重要な課題であり、取り組みの充実を図る必要がある。

【自転車の安全利用】

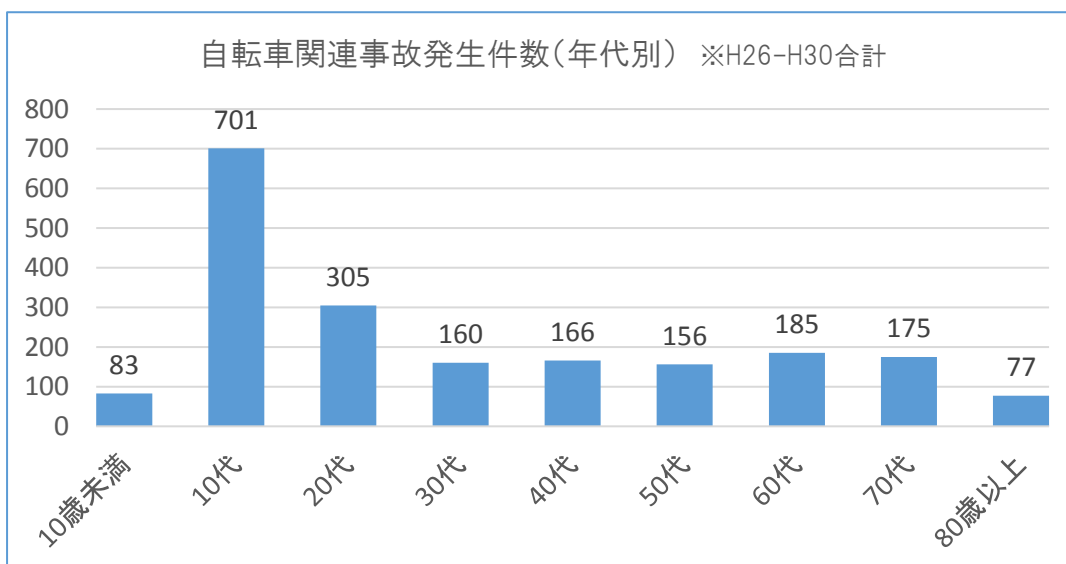
自転車の交通事故発生件数は減少を続けているが、通学などの移動で自転車を利用する機会が多いと推測される10代の事故が突出（下図②）している。

継続して、全小学校での交通安全教室に取り組むとともに、中学生・高校生等へ交通安全啓発・教育を行う機会の拡大を図る必要がある。

図①



図②



2019年度取り組み方針

交通安全対策委員会

総括票

具体的施策		2019年度取り組み方針
1-①	運動能力や身体機能に着目した啓発・講習の実施	<p>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各校区コミュニティ組織等との連携 ○交通安全指導員、ボランティア等による地域での自主活動の促進（指導員等への情報提供の充実） <p>運転免許自主返納制度の周知【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティ組織や老人クラブ連合会、関係機関との連携
1-②	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施	<p>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>防犯対策委員会との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○青パト活動団体等との連携 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なキャンペーンの実施
1-③	安全安心マップの作成	<p>他の対策委員会と連携したマップの作成【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分野横断的なマップ作成（防犯、防災） <p>コミュニティ組織や校区の関係団体との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校区コミュニティ組織や校区の交通安全協会・防犯協会、学校、PTA等との連携 <p>作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善【継続】</p>
1-④	交通安全教室の実施	<p>中学生・高校生への交通安全教育の充実【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各中学校、高校への働きかけ ※防犯教室や非行防止教室との連携等
1-⑤	自転車安全利用キャンペーンの実施	<p>マナー・ルールを知る機会の拡大【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様なキャンペーンの実施 ○周知広報の充実 <p>他分野との連携【継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防犯分野（自転車ツーロック）との連携 ○交通政策部門（ハード整備含む）との連携